

進んでいますか？ 暑熱対策！



2025年6月1日の労安衛則改正により、
暑熱対策は事業者には義務づけられました。

- ☑ WBGT値（暑さ指数）28℃以上または気温31℃以上で連続1時間以上または1日4時間を超える作業（屋外作業、高温多湿の屋内作業など）
- ☑ 対応義務は「熱中症の自覚症状が有る労働者」または「熱中症の恐れがある作業者を発見した者」が速やかに報告できる体制を作り、その周知を行うこと
- ☑ 違反者には6か月以下の拘禁刑または50万円以下の罰金

CASE
01

社長

コストはあまり
かけられないけど
労働環境を改善したい



CASE
02

工場長

工場が暑くて
作業効率が悪化
労災が心配



CASE
03

設備管理者

大空間を冷やす
には受電設備が
足りない



その悩み、YAZAKI が解決します

最小限の電力ピーク上昇・イニシャルコスト・ランニングコストで
最適な湿度・気流コントロールをご提案！



ピーク電力を抑えた熱源



高効率熱交換



冷風を遠くに届けるファン



井水利用で省エネ

除湿の重要性

WBGT（暑さ指数）の影響度は

→ **湿度：輻射 = 7：3（屋内）**

湿度が高いと汗が蒸発しにくくなり、体温が下らず熱中症のリスクが急激に高まります。気温よりも湿度（湿球温度）が重要です。

気流の重要性

気温が皮膚温以下（～34℃）、湿度60%未満の場合、風による汗の蒸発促進や対流による放熱効果が高まると言われています。

つまり、**除湿と気流の両立が重要！**

35℃以上、湿度60%以上では汗の蒸発が促進されず、空調服も効果が期待できません。

最適なアイテムをベストミックス
お客様の暑熱対策をオーダーメイド

《導入事例》製造工程：20,000m²

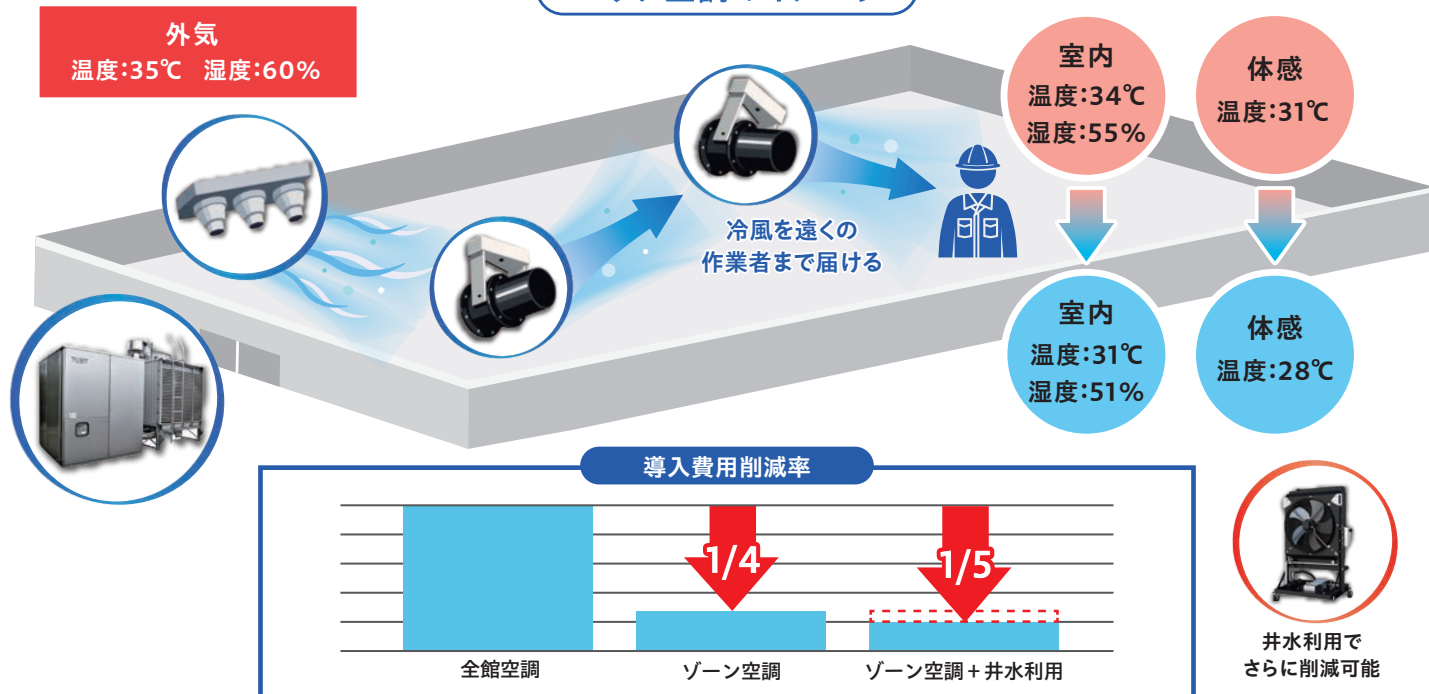
課題

- ・デマンドを上げられない
- ・リフト運行のためドアは開放
- ・大空間に作業者が点在

解決

除湿・気流を重視した
エリア空調で解決

エリア空調のイメージ



導入効果 現場の声



工場長
T・Uさん

暑すぎる現場環境が原因で離職者が出てしまう状況でした。さまざまな暑熱対策を試したものの、どれも効果は得られませんでした。このシステムの導入後は、現場のモチベーションが明らかに向上しています。安心安全な職場づくりにつながり、働く環境をしっかりと改善できたことが、大きな成果だと感じています。



製造部長
M・Mさん

「この暑さをなんとかできないか」という声現場から常に上がっていました。導入後は、実際に温度が3～4℃下がりました。さらに、ファンを効果的に活用することで、暑さが厳しかったエリアにも冷風を届けられるようになったと実感しています。



工程責任者
Y・Aさん

私は湿気の多い工程を担当しており、まるでサウナの中にいるような過酷な環境でした。導入後は、除湿された風を体感じられるようになり体感温度が大幅に低くなりました。また、機械設備にとっても良い影響が出ていると感じます。環境が改善されたことをとてもありがたく思っています。



工程リーダー
A・Kさん

出勤して工場内に入る際に気が重くなるほど、環境は厳しいものでした。仕事の前からすでに汗をかいてしまい、モチベーションが下がってしまう状況でした。中には体調を崩す仲間もいて、休憩を取る回数も多かったです。導入後は、体調面でも体力面でも明らかに改善が見られました。

YAZAKI



テクノ矢崎株式会社

本社
〒140-0004 東京都品川区南品川2-2-10 南品川ビル3F ☎03(5783)1401
ソリューション部 / カーボンニュートラル推進部
〒140-0004 東京都品川区南品川2-2-10 南品川ビル1F ☎03(5783)1436

Webでのお問い合わせ
<https://www.t-yzk.jp/contact/>

ホームページアドレス <https://www.yazaki-group.com/>